

中国四国地方における 自然災害伝承碑の分布とその活用

徳島大学 西山賢一

- 2011年東日本大震災を機に、過去の災害伝承の重要性が強く意識されるようになった。
- 2018年西日本豪雨災害でも、過去の災害伝承がニュータウン住民に伝わっていなかったことが問題となった。
- 2019年には、国土地理院が、新しい地図記号「自然災害伝承碑」を作り、周知に努めている。
- 中国・四国地方に残る災害伝承碑をたどりながら、過去の人たちが災害に直面し、それを乗り越えてきた経験に学びたい。
- 1. 近年の災害（2014年広島，2018年西日本豪雨）の伝承碑
- 2. 1976年・徳島県穴吹川災害をめぐる
- 3. 1892年・徳島県那賀川・海部川の深層崩壊
- 4. 歴史災害の検証：四国を襲った1866年「寅の水」
- 5. 津波防災と自然災害伝承碑



過去の災害を伝える碑が、新しい地図記号に追加：
自然災害伝承碑（2019年から）

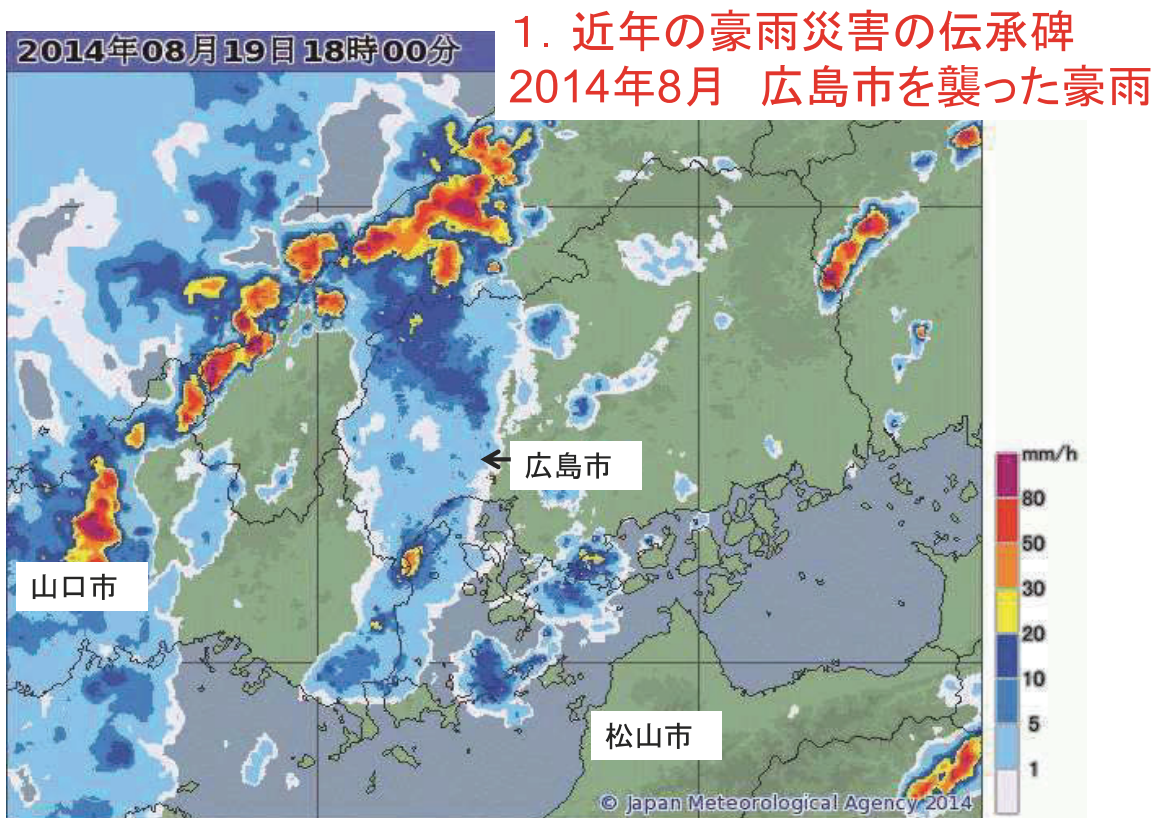
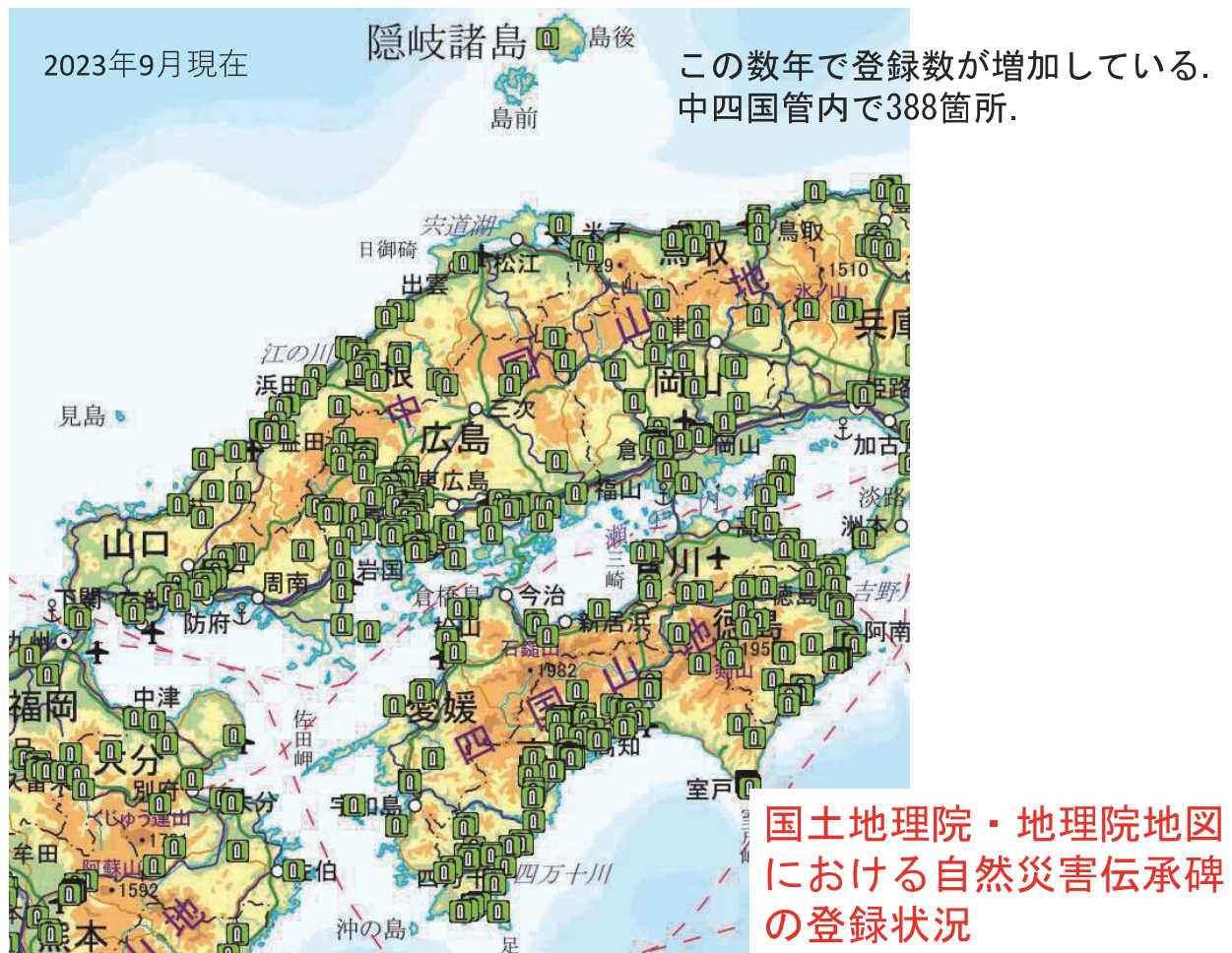
広島県坂町の例.

2018年西日本豪雨で
土石流による大被害を
受けた坂町小屋浦地区.

この地区には、1907年
にも土石流で大被害を
受けたことが、石碑として
伝承されていたが、新し
く引っ越してきた住民た
ちは、その伝承を知らず
に、2018年に被災した。



「地理院地図」で検索。トッパー災害伝承・避難場所—
自然災害伝承碑 の順で表示できる。左の地図記号を
クリックすると石碑の写真と災害の概要が表示される。



気象庁・高精度降水ナウキャストによる解析雨量



広島市安佐南区・県営緑ヶ丘団地の慰霊碑(2016年撮影)



2023年にオープンした広島市豪雨災害伝承館

2018年07月06日03時00分

10:00 気象庁予報課長, 2回目の緊急記者会見

17:10 福岡・長崎・佐賀に特別警報

19:40 広島・岡山・鳥取に特別警報

22:50 兵庫県・京都府に特別警報



平成30年7月豪雨

高解像度降水ナウキャスト(気象庁提供)



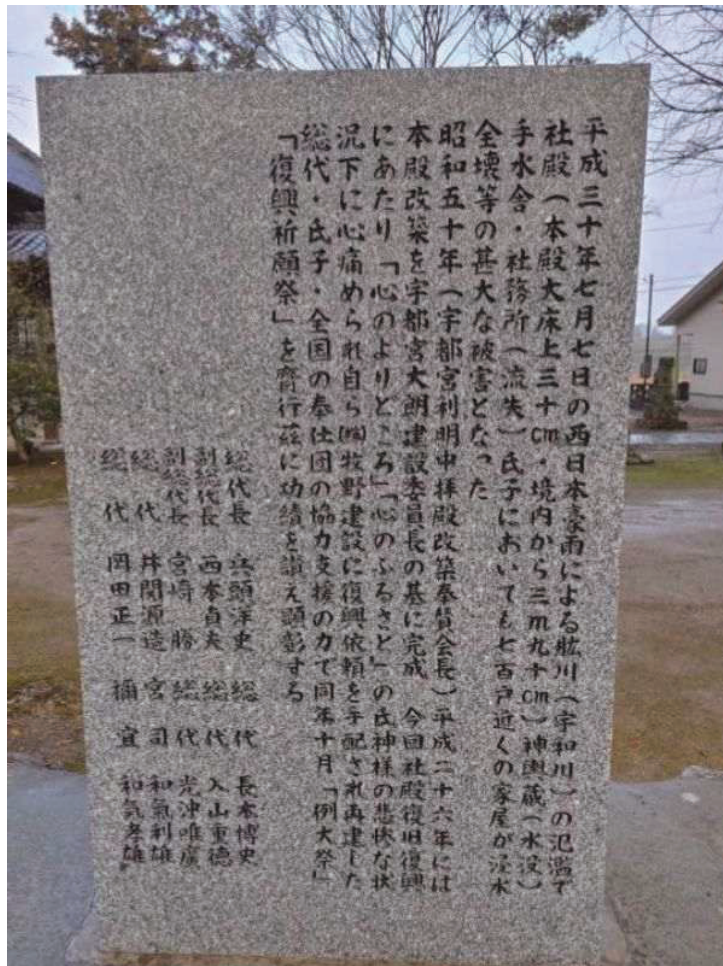


広島県坂町の自然災害伝承碑 (地理院地図HP)

9



10



西予市野村町・三島神社 にある自然災害伝承碑.

肱川氾濫による浸水被害の実態を伝えるとともに、氏子らの協力の下、復興祈願祭が行われたことなどが記されている。

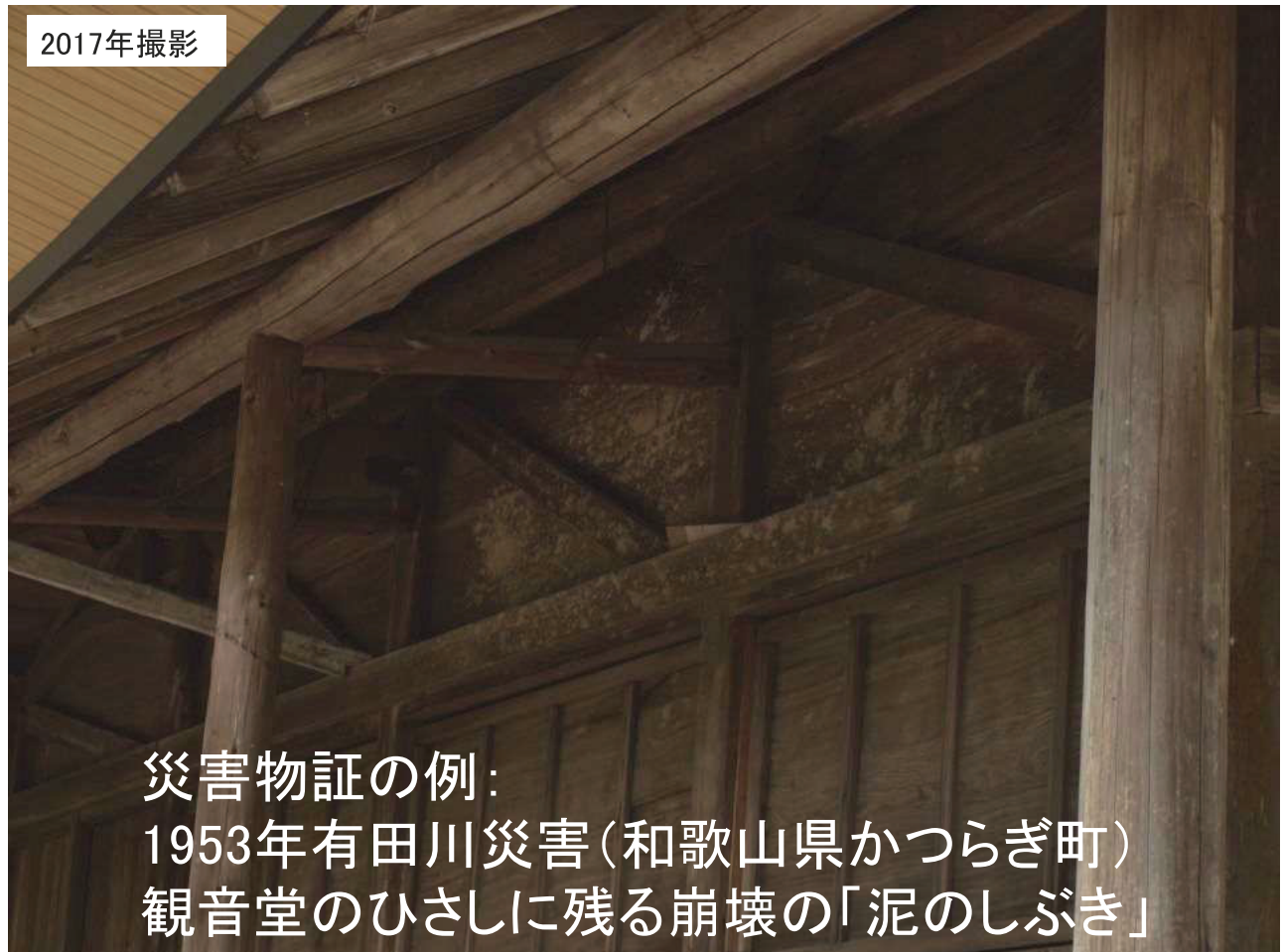
近年の災害は、デジタル・アーカイブも活用できるとはいえ、伝承碑の建立は、記憶の伝承にとって有用といえる。

現地に物証があると違う。

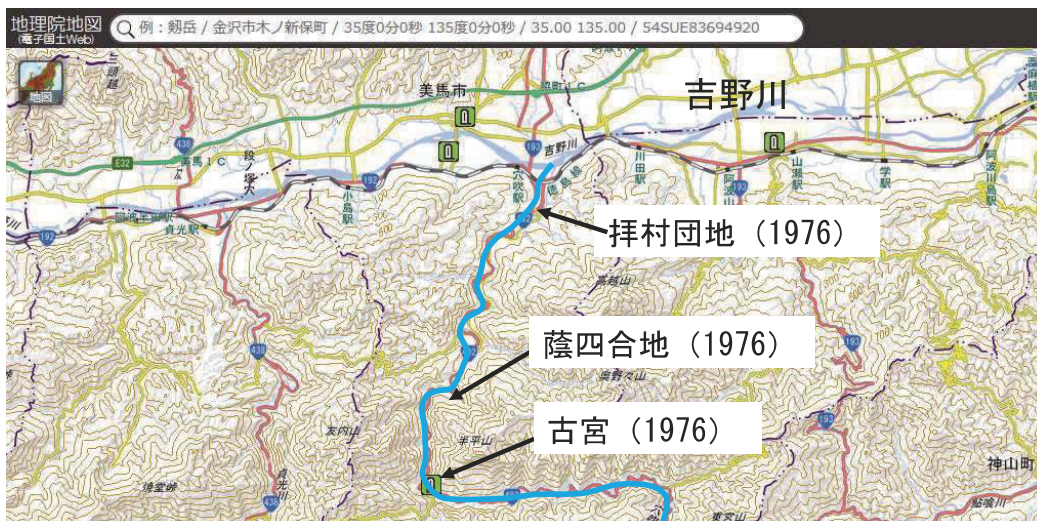
2023年撮影

11

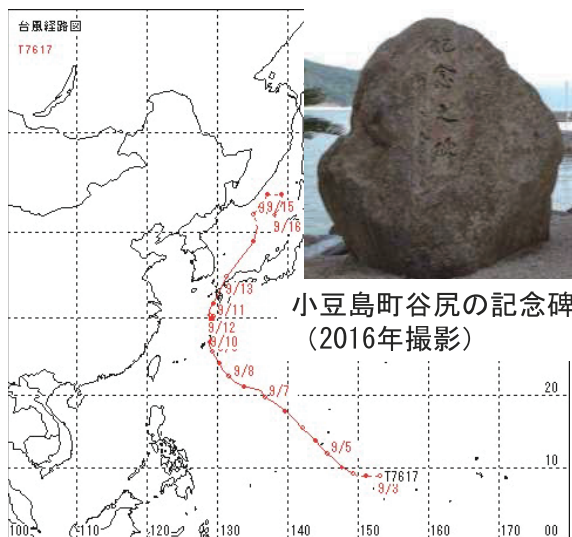
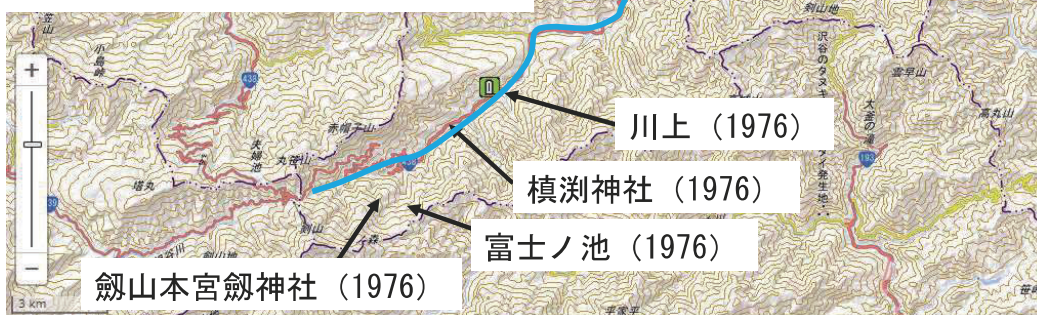
2017年撮影



災害物証の例：
1953年有田川災害（和歌山県かつらぎ町）
観音堂のひさしに残る崩壊の「泥のしぶき」



2. 徳島県・穴吹川流域に残る災害伝承碑をめぐる



気象庁資料

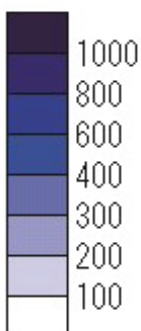
1976年台風17号

戦後の日本に襲来した台風のうち、最も多量の雨をもたらしたとされる台風。

徳島県那賀町日早では、9/7～13の総降水量が2781mmとなり、那賀川・穴吹川流域で複数の深層崩壊が発生。

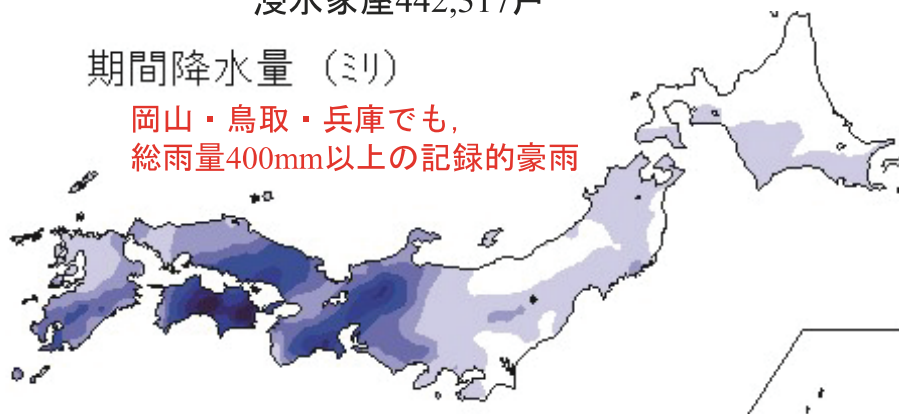
1974年に引き続き、香川県小豆島で土石流災害が続発。岡山県倉敷市真備町にも浸水痕跡が伝わっている。

死者・不明169名
家屋被害11,193戸
浸水家屋442,317戸



期間降水量 (ミリ)

岡山・鳥取・兵庫でも、総雨量400mm以上の記録的豪雨



2021年撮影

一の森

剣山

丸笹山

見の越峠

富士ノ池谷

穴吹川

美馬市木屋平・川井峠から遠望した
穴吹川源流部

2007年撮影

殉職の碑

「殉職の碑」（美馬市木屋平）

1975年台風豪雨により、木屋平・川井地区で斜面崩壊が発生。生き埋めとなった少年の救出作業中、再び崩壊が発生し、消防署員5名・消防団員1名が巻き込まれ、全員が亡くなった。（自然災害伝承碑に登録済）¹⁶

殉職の碑＝1972年高知県繁藤災害と酷似



崩壊地全景（昭和47年7月5日午後）

四国山地砂防事務所, 2004

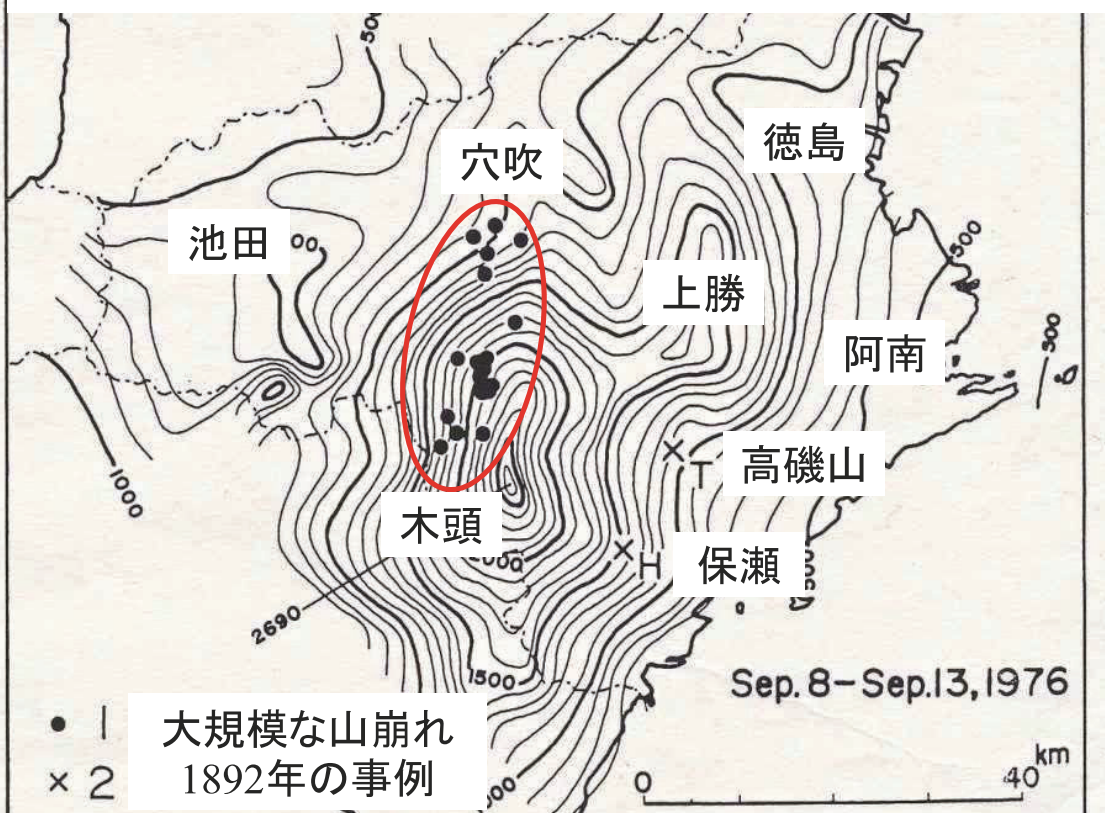
小崩壊が2回発生し、1名が生き埋めになったため、救助作業中に3回目の大規模な崩壊が発生し、60名が犠牲となった。



慰霊碑(2022年撮影)

17

1976年台風17号 穴吹川流域を襲った大災害



総雨量と大規模な山崩れ発生位置との関係(寺戸, 1985)

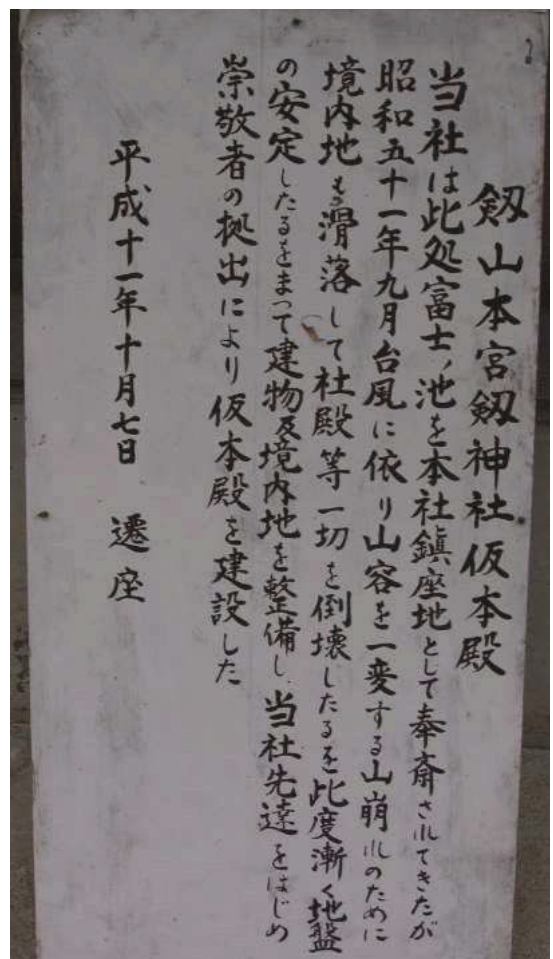


1976年台風17号豪雨により，穴吹川源流・富士ノ池谷で発生した深層崩壊（2007年撮影）．

19



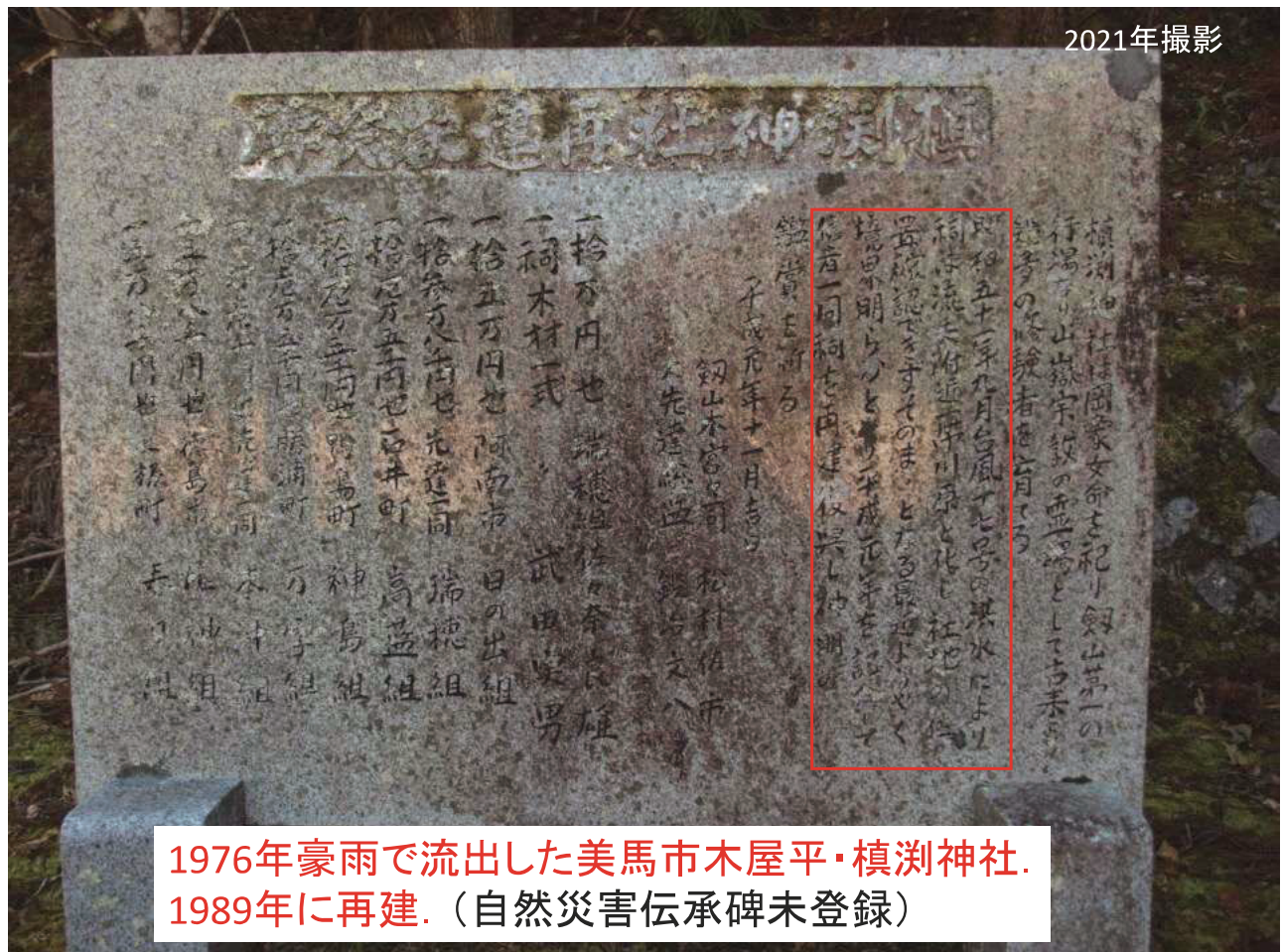
被災した劔山本宮・劔神社
1998年に再建．（2007年撮影）





2021年撮影

1976年豪雨で流出した美馬市木屋平・禊瀨神社. 1989年に再建.



2021年撮影

1976年豪雨で流出した美馬市木屋平・禊瀨神社.
1989年に再建. (自然災害伝承碑未登録)

2021年撮影



1976年豪雨で集落の大半が移転した
穴吹町古宮地区の災害伝承碑.



写真提供：徳島県

穴吹町・古宮地区の浸水状況



穴吹町・蔭四合地地区で発生した深層崩壊



写真提供：徳島県

穴吹町・蔭四合地の深層崩壊



防災集団移転記念碑（美馬市穴吹・拝村団地）

1976年台風17号豪雨で発生した大規模な斜面崩壊で孤立した蔭四合地地区の住民らが、集団で穴吹町に移転した団地に建立されている。

（自然災害伝承碑未登録）

27

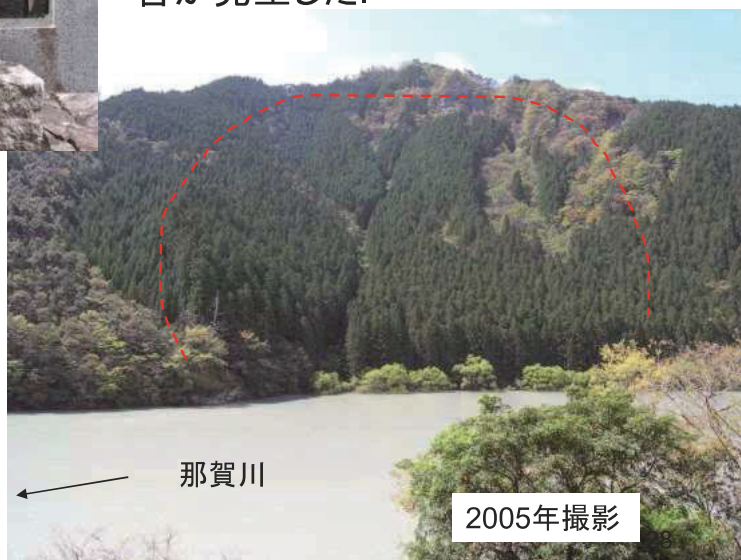


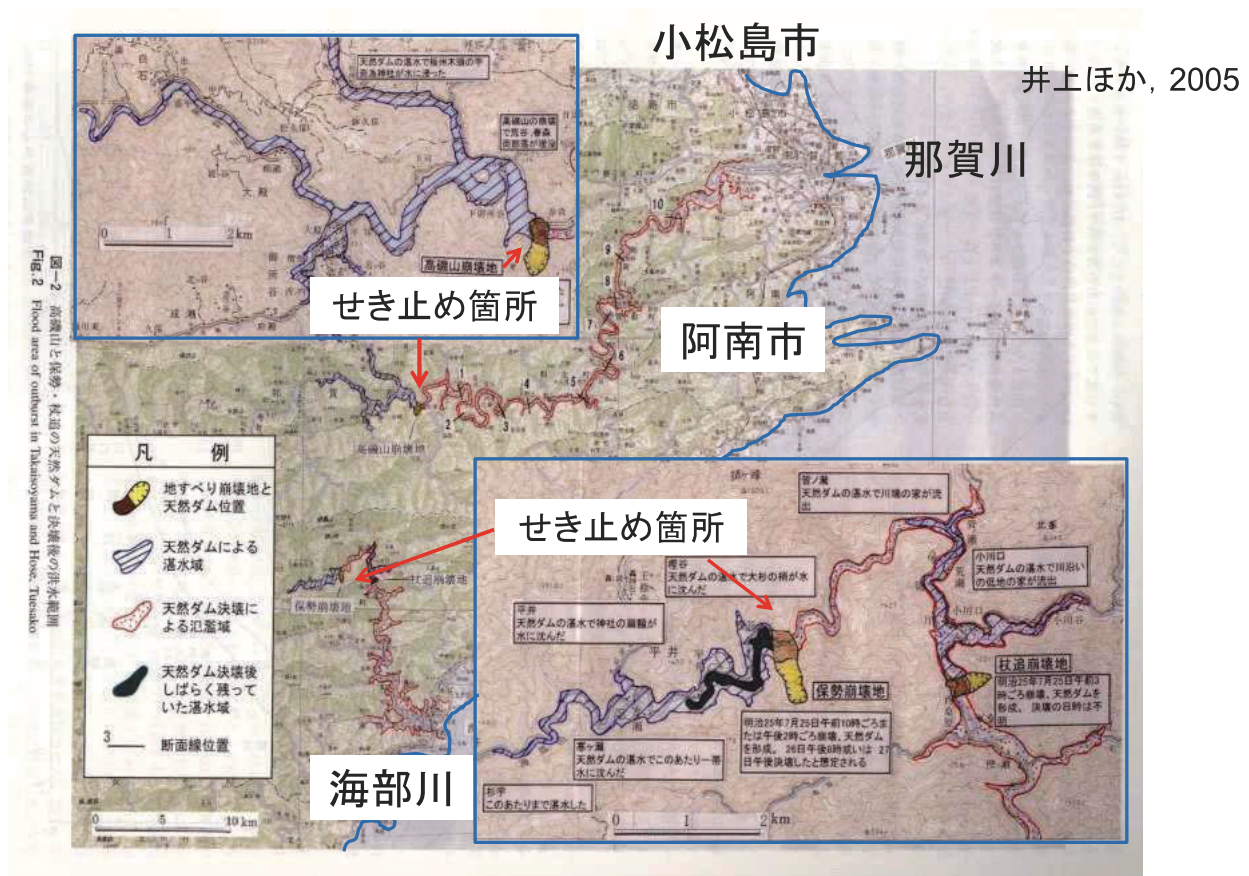
3. 1892年・徳島県那賀川・海部川の深層崩壊をめぐる

那賀川をせき止めた土砂が2日後に決壊し、阿南市に至る広範囲に大水害が発生した。

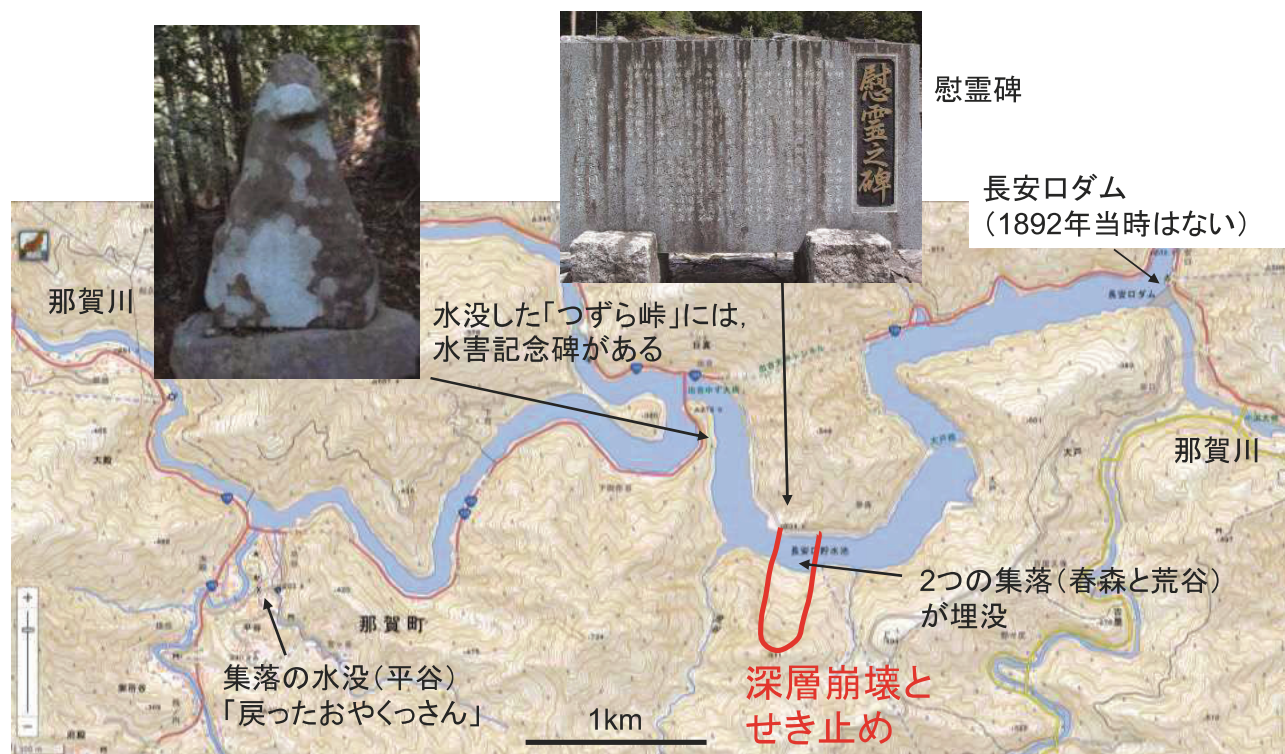
1892年の豪雨で大崩壊を起こした那賀町・高磯山（写真正面）。

2つの集落が土砂に埋まり、60数名が今もそのまま。





1892年豪雨による那賀川・海部川のせき止めと決壊による大洪水



1892年那賀川河道閉塞と決壊に伴う大水害の説明図 (地理院地図に加筆)

1892年 那賀川の天然ダム決壊による大洪水

- 那賀川をせき止めた土砂は、高さ70mも積み上がった。川沿いにあった2つの集落は完全に土砂に埋没し、60名以上が犠牲となった。
- せき止めによって、上流側の水位は時間とともに上昇し、上流約8kmまで達する巨大なダムとなった。いくつかの集落は水底に沈んだ。せき止めの発生の情報は、下流の阿南市方面へ、徒歩で伝えられた。
- せき止めの2日後、ついにこの天然ダムが決壊した。決壊発生と同時に、鐘などで下流に伝えられたが、下流に大洪水が流れた。那賀町驚敷付近で、高さ20mの津波のような大洪水となって流下し、阿南市でも高さ6～10mの洪水となり、川沿いの家々を押し流した。
- この大洪水による犠牲者は3名。多くの住民が、せき止めの情報を聞いたあと、山の上に避難していたため、大洪水のわりに少なかった。
- 阿南市大野・楠木神社では、人々が楠の大木によじ登って助かった。
- 同じ豪雨で、海部川中流の保瀬でもせき止めが生じ、数日後に決壊。海部川河口まで大洪水が達した。
- 河道閉塞による天然ダムの決壊は、数10km下流まで達する大洪水を引き起こす。土砂災害のうち、最も破局的な現象。

31



せき止め湖のため水没した那賀町平谷(1892年)

32



薬師堂の全景



那賀町平谷の水害伝承. 那賀川のせき止めにより集落が水没した. 集落より高い位置にあった薬師堂も水没して浮き上がり, 300m離れた八幡神社まで流された. せき止め湖の決壊に伴い, 薬師堂は元の位置に自然に流れ着いて止まった. (薬師堂の隣にあった祠は下流に流され, 村人が搜索して発見, 元に戻した) 現在も, 「戻ったおやくっさん」として語り継がれている.

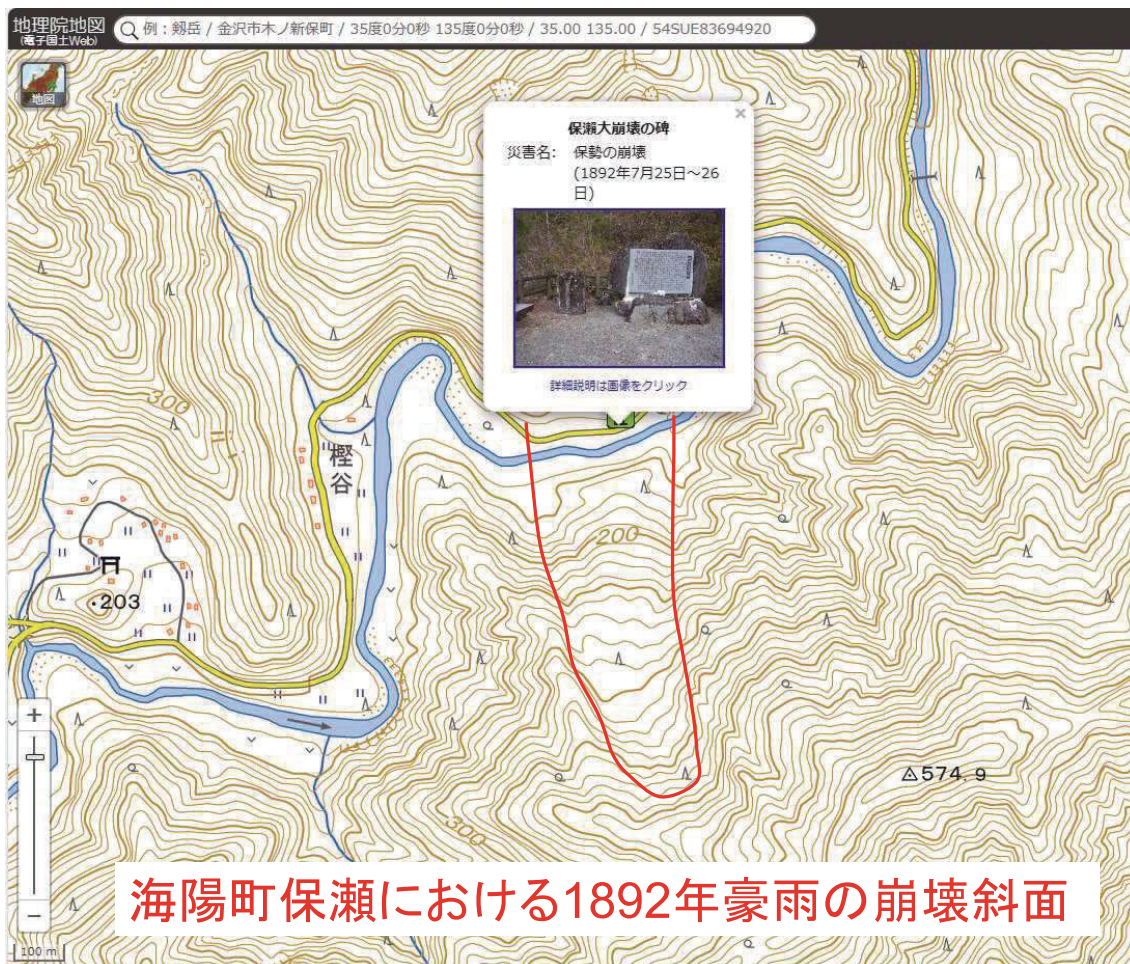
33



海陽町保瀬にある1892年豪雨の供養塔と伝承

地元の伝承「保瀬のチエとお玉が淵」(海南町総合学術調査報告書, 1992): 保瀬出身の女性・お玉が, 連れ合いに死なれたあと, 子どもを連れて村に戻ってきたが, 子どもが折檻されてつまはじきとなり, 絶望のあまり, 「保瀬は野になれ」とつぶやき, 子どもとともに淵に身を投げた. その翌日から7日7晩の風雨となり, ついに山が大崩壊(=チエ)した.

34



今後の課題: 崩壊斜面と特定と、崩壊発生に至る
地形・地質的条件の検討。
UAVレーザーなら、崩壊斜面特定が可能か？

2021年撮影



1892年豪雨で崩壊した上勝町・槻地(きやけじ)地区
土砂が藤川谷を埋めた(小松島市史). 上勝町史に記載なし.
崩壊斜面は未特定.

4. 歴史災害を検証する： 四国を襲った1866年「寅の水」



幕末～明治の蘭方医・関寛斎は、
徳島藩の典医であったが、1866
年寅の水に遭遇して被災。
その時の模様が、小説「あい
永遠に在り」に描かれている。

中徳島町・助任川緑地公園内に、
関寛斎の胸像が置かれている。

晩年は、北海道・陸別町の開拓
事業に身を投じるが、志半ばに
して自死。



徳島市近郊に残る「寅の水」災害伝承碑

2017年撮影



1866年に発生した吉野川の大洪水「寅の水」によって、お寺の茶室が床上+60cmまで浸水。過去帳によれば、溺死者多数。自然災害伝承碑に登録済。境内にある「らせん井戸」が、2021年に国指定・登録有形文化財に指定。

徳島市国府にある蔵珠院の洪水痕跡

41

2017年撮影



蔵珠院
(床上60cm)

浸水高さ

自然堤防

旧河道

寺は「自然堤防」の微高地の上にあるが、周囲の田畑は低い。浸水深さは、田畑の地表面からだと、約3mもある。1866年「寅の水」では、徳島平野は見渡す限りの泥の海となった。

徳島市国府にある蔵珠院の洪水痕跡

42



徳島市一宮町僧都（そうづ）にある石碑.
 1866年寅の水で鮎喰川がはんらんして大被害になったこと、
 その後、蓬庵堤とよばれる堤防を築いたことが記されている。
 明治14年建立.

43



1866年 寅の水の大被害：那賀川の例



阿南市・城山神社に伝わる 1866年「寅の水」の被害伝承 (自然災害伝承碑に未登録)

1866年洪水で流された実話に
基づく絵馬 (社殿内に展示)

阿南市・那賀川沿いでは、
洪水で大被害となった。

医師・岸玄碩の家が洪水
で浮き上がり、流された
が、家族8人は外れた天井
板に乗り、普段から信仰
していた城山神社を伏し
拝みながら耐えたところ、
一里ほど流れたところで
助かった。

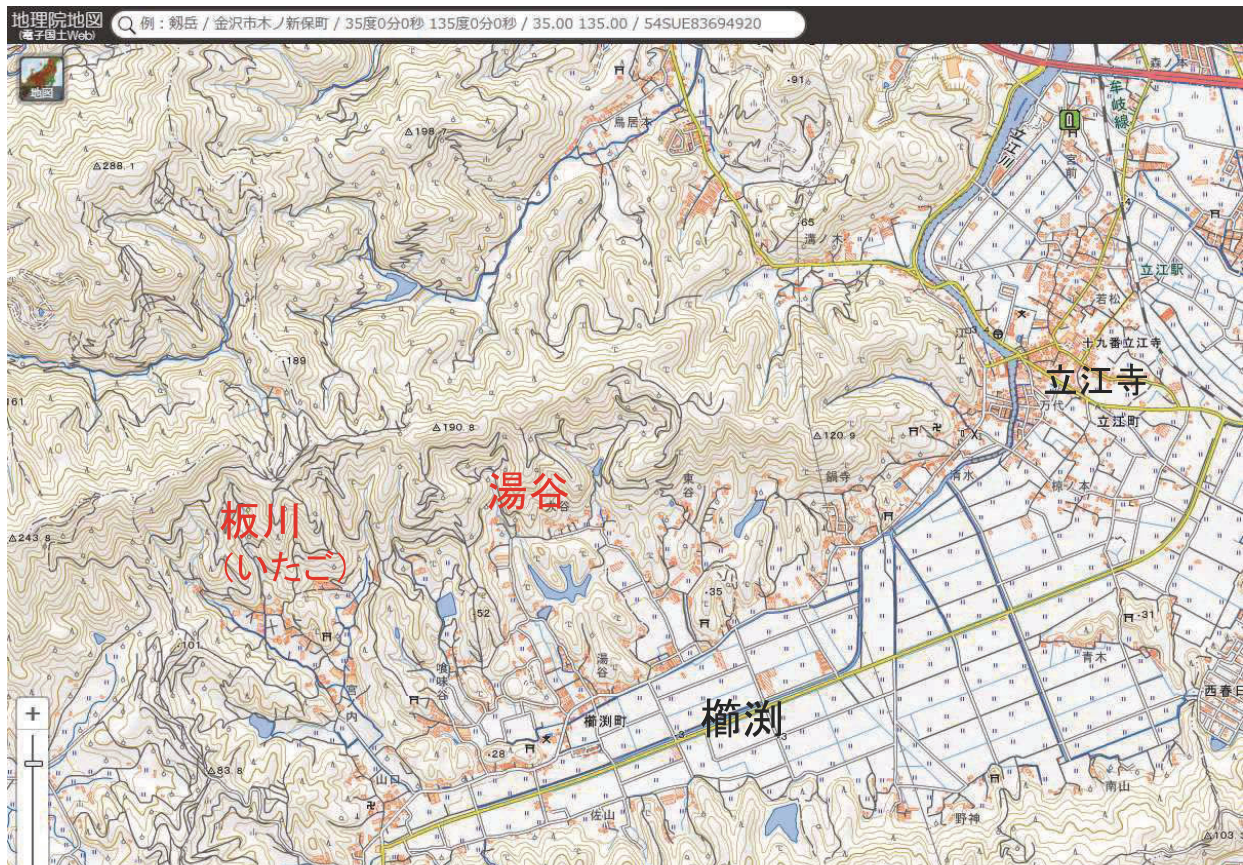


阿南市・第二十二番札所・平等寺に伝わる浸水被害

新野町史(1926)によると、「寅の水」の際、阿南市平等寺の門前の石段が
三段目まで浸水した。

1950年ジェーン台風の際、平等寺門前に近い平等寺橋が洪水で流出した
(新野町民史, 1960)。

(いずれも自然災害伝承碑に未登録)



「寅の大水」豪雨で斜面が崩壊した小松島市櫛淵の湯谷・板川地区

今後の課題: 崩壊斜面と特定と, 崩壊発生に至る
地形・地質的条件の検討.
UAVレーザーなら, 崩壊斜面特定が可能か?

2021年撮影



「寅の大水」豪雨で斜面が崩壊した小松島市櫛淵の湯谷・板川地区
板川地区の調査結果(寺戸, 1988)によれば, 崩壊土量は14万 m^3 と推定されており, 深層崩壊といえるレベルの大規模な崩壊である。
(郷土誌に掲載された小さな図しかなく, 場所が未特定)
稜線の標高が200m程度と低いにもかかわらず, 崩壊規模が大きい。

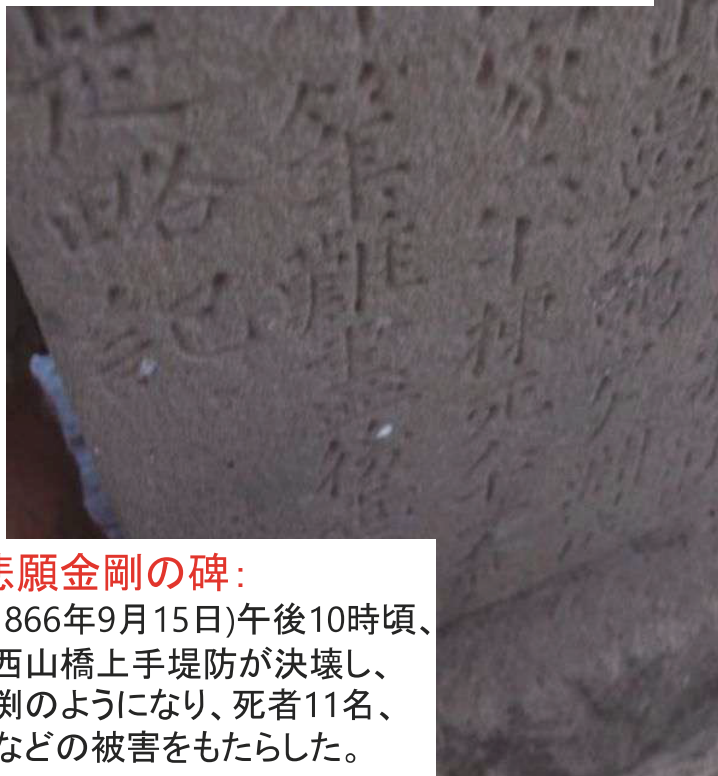


香川県東かがわ市に残る 1866年寅の水災害の伝承碑



1866年豪雨は、吉野川・那賀川水系にとどまらず、四国の広域に激甚な被害をもたらした災害と思われる。その実態解明が今後の課題。

2021年撮影



東かがわ市・悲願金剛の碑：

慶応2年8月7日(1866年9月15日)午後10時頃、湊川上流の福栄西山橋上手堤防が決壊し、周辺は鳴門の大湍のようになり、死者11名、家屋の流失60棟などの被害をもたらした。

5. 南海トラフ巨大地震に伴う 津波の自然災害伝承碑とその活用

- ・ 徳島県内の津波碑・事例紹介
- ・ (1) 小松島市海岸部：伝承の「うのみ」は危険
- ・ (2) 海陽町浅川：過去3回分の津波伝承から学ぶ



南海地震を知る 徳島県の地震・津波碑

日本最古の津波碑：1364年正平南海地震津波の供養碑「摩耶碑」 徳島県海部郡美波町東由岐

徳島県
〔監修〕
徳島大学環境防災研究センター



2008年公開(PDF)

2011年東日本大震災前から、地震・津波碑の紹介がなされてきた。

1970年代の羽鳥徳太郎先生らの津波碑研究に始まり、1980年代以降は、徳島大学名誉教授・村上仁士先生(海岸工学)らによる津波研究が進められてきた。

2004年に設立された徳島大学環境防災研究センターが、住民の防災意識向上のために2008年に作成した資料。

53



「津波」の自然災害伝承碑の分布と、今日の話題提供の伝承碑
(地理院地図, 2023年8月現在)

54

徳島県内の地震津波碑：
2017年に、「国登録記念物(遺跡関係)」に指定された

2021年撮影



55

1361年正平南海地震を伝える
日本最古の津波碑
「東由岐 康暦碑」

2019年撮影

「太平記」には、「阿波雪湊」
として登場。
(現在の地名:美波町由岐)



東由岐 康暦碑
(1361年正平南海地震)

56



小松島市にある津波碑の例(赤石豊浦神社)

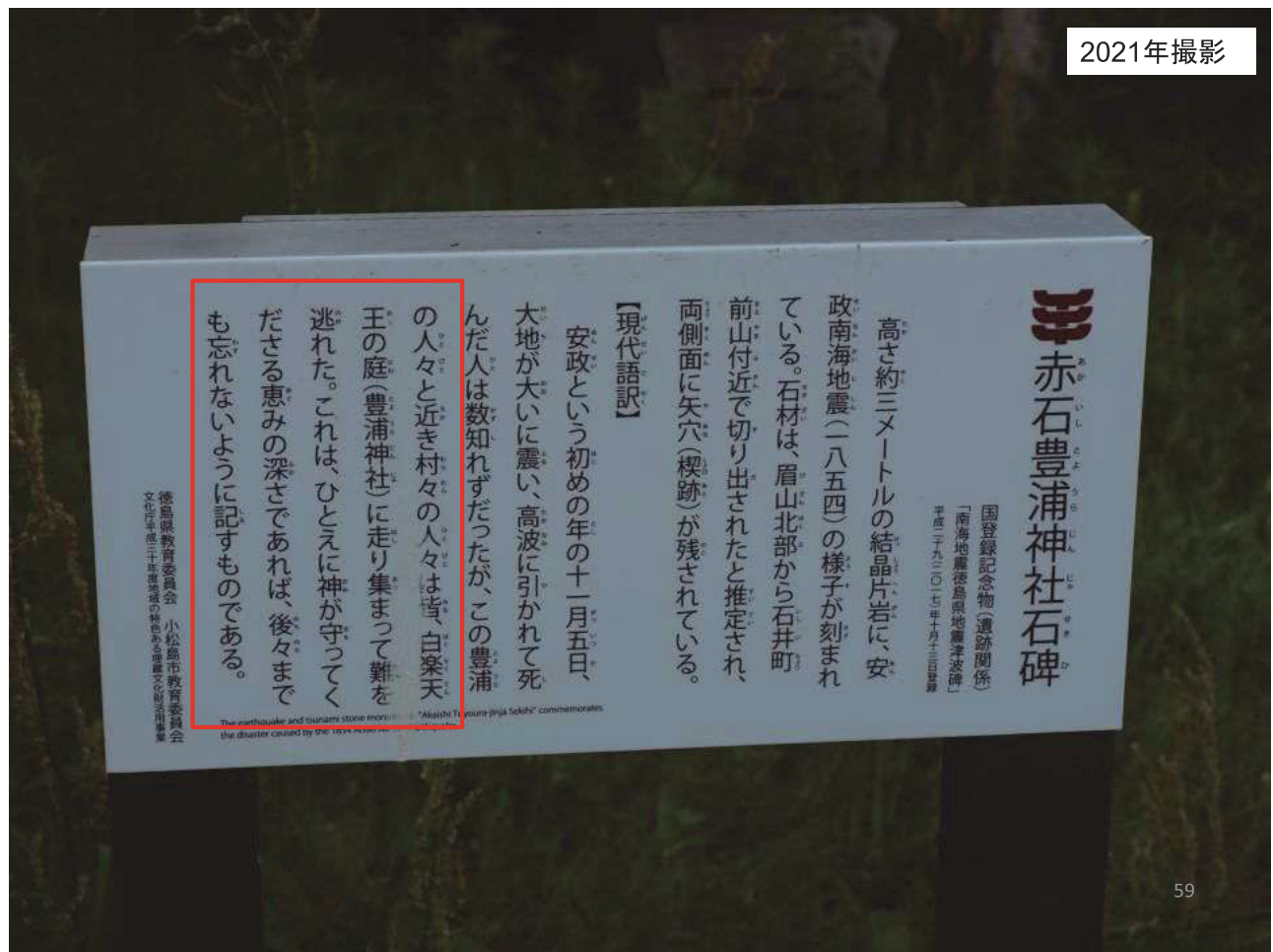
57

石材:三波川
変成岩類
(緑色片岩)



2021年撮影

58

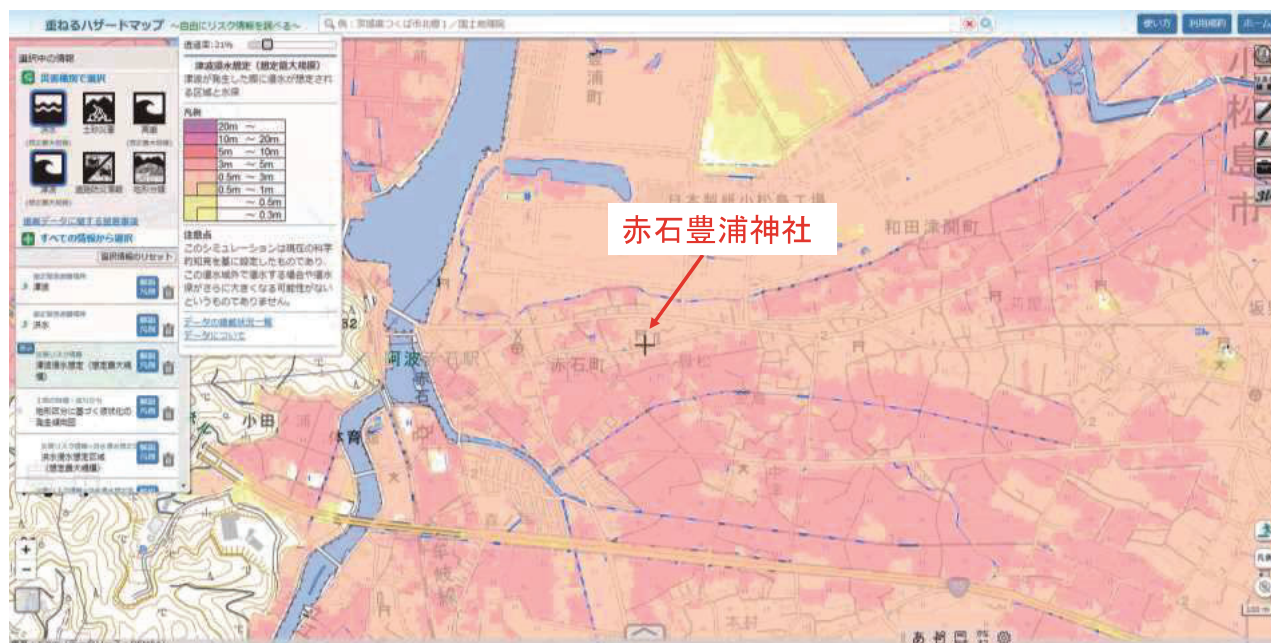


59



標高2mの砂州の上に立地する神社を目標に、近隣から避難住民が集まって来る事態は、避けなければならない

60



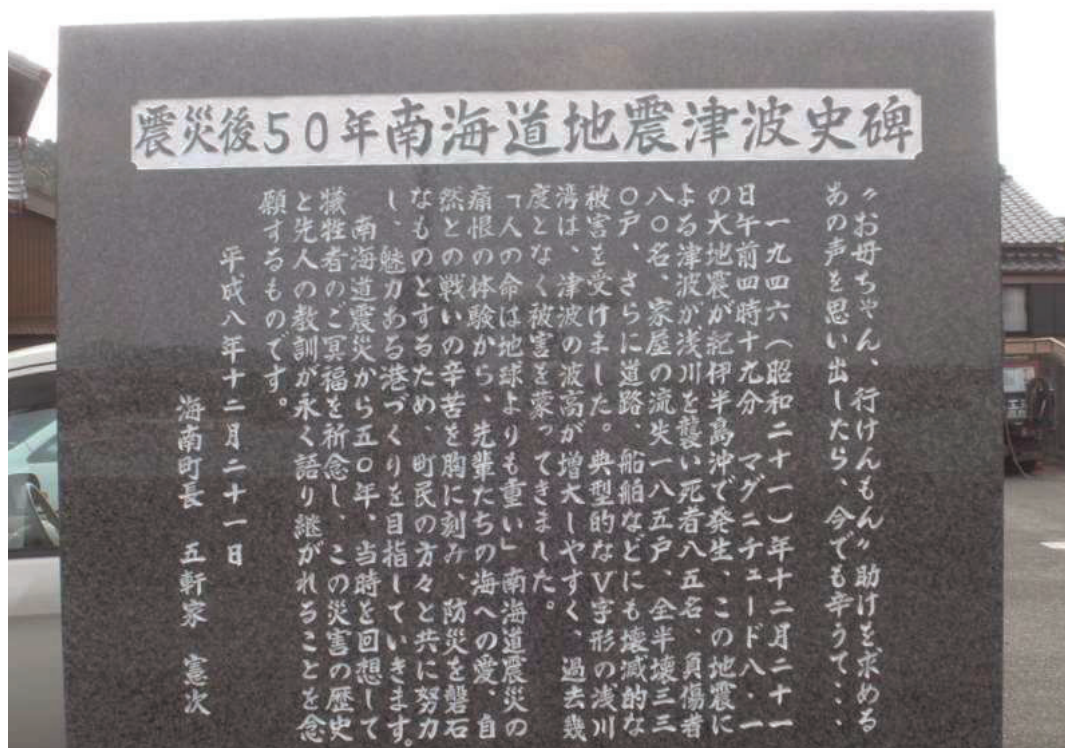


1946年昭和南海地震津波に襲われた浅川港での悲劇を描いた絵本。

徳島出版株式会社 (2008年改訂版発行)
ISBN-10 : 4886275133

63

2010年
撮影



徳島県海陽町にある津波碑(海陽町浅川)。

「お母ちゃん、行けんもん」・・・2人の子どもを連れ、避難中の母子。娘の1人が、母親の目の前で、濁流に飲まれていった。その子の最期の言葉。

64

2010年撮影



1605年慶長津波で折れた鳥居(浅川天神社).

残念ながら, 1605年当時の社殿位置が厳密に特定されていない.

→当時の社殿位置が分かれば, 津波遡上高さの推定にも使える.

65



元の石碑

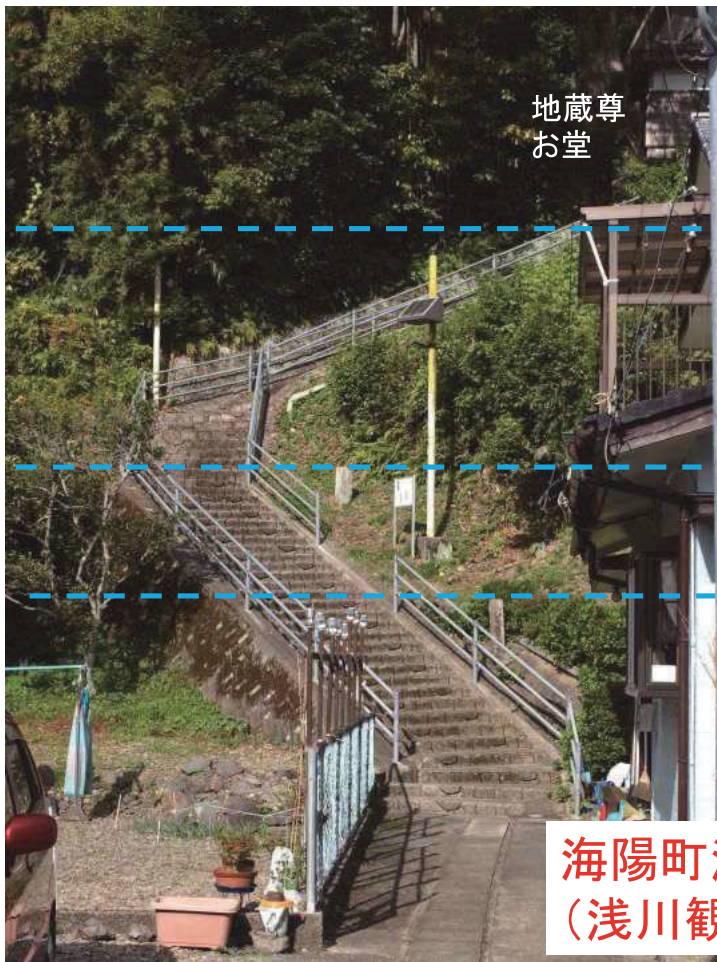


読み下し文にした
新しい石碑

2018年撮影

1854年安政地震碑(浅川天神社)

66



海陽町浅川に残る津波痕跡
(浅川観音庵)

67



68



2019年撮影

地蔵尊
お堂

宝永津波の浸水痕跡碑(浅川観音庵)

お堂の中にある地蔵尊の台石に被害記述がある。

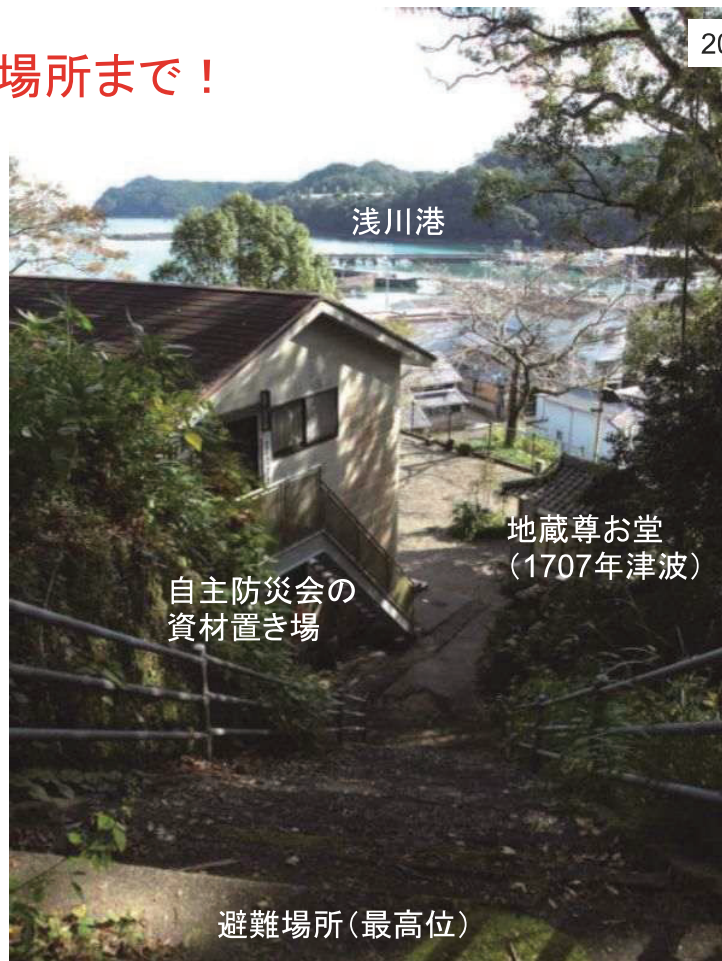
69

避難はより高い場所まで！

2019年撮影

1707年津波高さを示す
地蔵尊お堂より高い場
所に、自主防災会の資
材置き場がある。

最高位の避難場所は、
資材置き場よりさらに
高い場所にある。



浅川港

地蔵尊お堂
(1707年津波)

自主防災会の
資材置き場

避難場所(最高位)

70

津波碑を防災に活かすために

- 碑文をうのみにするのではなく、応用地質学的に解釈し、より安全な避難行動につなげなくてはならない。
- 例：標高1.9mの砂州上にある「赤石豊浦神社」(小松島市)境内に、近隣住民が避難で集まって来る事態は避けなければならない。
- 浅川地蔵尊の例のように、宝永地震の津波遡上高さ付近で安心してはいけない。少しでも、より高い場所へ避難する。自主防災会の資材置き場も、お堂より高い場所にある。
- 難しい碑文・石碑の風化により判読できなくなりつつある碑文は、読み下し文または現代語訳して、子どもにも分かりやすく改める。風化が著しい石碑は、3Dデータ化など、デジタルアーカイブで保存する。

71

自然災害伝承碑から学ぶこと

- 1. 過去の記録的災害を振り返る重要さ：
- 地球温暖化による異常気象が懸念されているが、過去を振り返ると、近年生じたことのない異常な豪雨に襲われてきた履歴がある。
- 今回紹介した1976年台風17号豪雨をはじめ、1972年豪雨（死者400名以上）、1953年豪雨（死者1,000名以上）などを振り返り、何が起こったかを語り継いでいくことが必要。
- 2. 安全な土地に住まう重要さ（逃げないで済む防災）：
- 紹介した拝村団地（美馬市）のように、災害危険性が高い土地からの集団移転が、1972年豪雨災害を機に行われてきた。
- 1972年豪雨災害の研究で「災害問題の本質は土地利用にある」とされた。明治以降の人口増加と、特に戦後の高度経済成長によって、かつて人が住む土地ではなかったところが宅地化され、被災している事実を踏まえ、人口減時代の土地利用を考え直すべき時に来ている。

72